

馬の耳

どんな良い話を聞いても、何も行動しなかった私が「馬」ではなく「人間」である証明をする為、勉強会等で学んだことをまとめ、この「馬の耳」を作ることにしました。お世話になっている皆様のために、少しでもお役に立てればと思います。



発行日 2009年11月1日

発行元 (有)沼津電話工事

小野博文

〒410-0022 静岡県沼津市大岡3916-8

055-921-1551 tel

055-922-1144 fax

<http://www.net-ndk.co.jp/>

ono@net-ndk.co.jp

「博文は一度死ぬ!？」では、色々のご心配をお掛けしました。多くの方からお電話や、お手紙をいただき、本当に申し訳ない限りです。今では、あの時の出来事は何だったのか?と思うくらい、元気でピンピンしています。お酒のリハビリも完了し、最近では、また呑みすぎ傾向が強くなってきました。“のど元過ぎれば・・・”ですね。同じ事を繰り返さぬよう、注意したいと思います。(汗)

【ない人に限って】

「ない人に限ってそれを大切にしないで、ある人に限ってそれを大切にしている。」そんなこと、思ったことありませんか?

たとえば、貧乏な人に限って無駄使いをして、お金持ちの人はお金を大切にしている。(お金を活かしている) 勉強が出来ない子に限って勉強せず、できる子は一生懸命勉強する。

友達がいらない人に限って人間関係を粗末にするし、売れない営業マンほど仕事にパチンコをしたり、車の中で寝ていたりする。そう思いませんか?

貧乏な人はお金がほしいでしょうし、成績の良い子だって良い成績をとりたいたいでしょう。また、友達がいらない人だって、売れない営業マンだって、本当は友達や売上がほしいのだと思います。

それなのに、なぜ“ない人”に限ってそうなのか?というと、きっと「うまくいった経験がないからではないか?」と私は思ったのです。

じゃあ、どうしたら変わるのかというと、単純に“小さな成功体験”を積み重ねることじゃないでしょうか!?

私は自分で決めたことをやりきったことが少なく、「ない人」をずっと繰り返してきました。

しかし、20セットの目標を達成したことは、小さな事かもしれませんが私にとって、とても大きな成功体験になりました。今までと同じことを繰り返していて、良い結果が出ないとするなら、それをどんなに繰り返していても、きっと同じ結果しか出てこないと思います。小さな事でも、ちょっと工夫をして変えてみるのが、自分を変える大きなチャンスになるのかもしれない!

そう思いながら、今月号もギリギリになってしまいました。(汗) 会社のため、社員のためにも、追い詰められないと本気にならない私を、来年に向けて変えていくこととお約束します!

【物語性をもった商品】

今の時代、モノがあふれ、本当にほしいもの、必要なものが少なくなってきましたね。では、消費者の方はどんなものにお金を使いたくなるのでしょうか?それは「物語性をもった商品」だと、杉井先生は話してくれました。

たとえば、以前にも紹介させて頂いた、浜松の京丸園さんから発売された「ほっとなおいも」は、ただのサツマイモではありません。

箱詰め売りなのですが、大きさは不揃い、ひげ根も蔓も、土だって着いたままなのです。しかも、値段だって安くないのです。ひどいじゃありませんか!これを、もしスーパーに置いたらクレームものです。

しかし、この「ほっとなおいも」は、飛ぶように売れていったのです!

では、なぜこの不揃いのサツマイモが売れてたのでしょうか?そこには、素敵な物語があったのです。

この「ほっとなおいも」は京丸園の鈴木厚志社長が、遊休農地を借り受けて、社会福祉法人遠浜会「ほっと」の方々や、地域のおじさん達と、みんなで一緒に汗を流して作ったものです。ここで収穫したサツマイモは、ただのサツマイモではなく、地域と障がい者、そして消費者へとつながった、やさしさがいっぱい詰まった商品なのです。

この「物語」が差別化となって、スーパーで売っているきれいで、形の揃ったサツマイモよりも価値のある商品になったという訳です。

これは厚志社長が目指す「ユニバーサル農園」の一環だそうですが、福祉のための農園ではなく、「農業経営における幸せの追求」という目的が形となった商品なのです。この売上は、もちろん「ほっとさん」にも分配されたそうです。

目先のお金ばかりを追い、「損した!得した!」と一喜一憂して、「値引き・安売り・オマケ付」のような直接的なサービスばかりしていた私は、あまりにも工夫が足りなすぎました。「ほっとなおいも」のように、目的に添った物語を作っていくことが大切だと、教えていただきました。

どんなものか知りたい方は、「京丸園さん」のホームページを見てください。見るだけでもマーケティングの勉強になると思います。

【離れた看板からケイタイに情報】

駅や街中にある看板から、手軽に情報を取り込める新技術が開発されました。看板に取付けられた発光ダイオードの点滅光を、ケイタイで受けて情報を得るというものです。電車を待つ間、隣のホームにある看板に向ってケイタイをかざし、広告に関する詳しい情報を得るという使い方が可能になります。



沼津経営塾開催日

11月27日(木) 市民文化センター第四会議室 PM7:00より

お馬様の
今月のお言葉

「お金の心配は
お金の心配は
お金の心配は」